

などを検討している。活動のPRにも力を
入れていきたい。



野崎久雄議員の質問

高齢者の带状疱疹ワクチン 接種費用の補助について

- Q 6月の議会での質問から3カ月過ぎ
たが、具体的な進展はあったのか。
- A 市民の皆様が満足していただける
事業にするべ
く、来年度の予算
編成に向け、詳細
な制度設計の準備
を進めていく。



リフォーム補助金の新設に ついて

- Q 今現在、三条市で行われている三
条市すまい快適断熱リフォーム補
助金は、基本工事に支出条件が設けら
れていて、なおかつ補助額が少な過ぎて
驚きを禁じ得ない。10万円の補助額で
住宅の何がリフォームできると考え
ているのか。
- A また、断熱に限定しないで、普通のリ
フォームでも補助できる制度を考
べきではないか。
- A 国も省エネ基準や、さらに高水準

のZEH基準に適合した一定水準以上
の断熱リフォームに対して補助を行っ
ているが、三条市ではそれらの条件に満
たない簡易な断熱リフォームに対しても
補助対象とすることで、この制度の
利用促進を図っている。



リフォーム前



リフォーム後

武藤元美議員の質問

- Q 介護現場での人手不足による支
障や問題はないか。
- A 訪問介護で68%、入所施設で56%
の事業所が人材不足を感じている。
- Q 介護現場での人手不足による支
障や問題はないか。
- A 訪問介護で68%、入所施設で56%
の事業所が人材不足を感じている。
- Q 介護現場での人手不足による支
障や問題はないか。
- A 訪問介護で68%、入所施設で56%
の事業所が人材不足を感じている。

介護保険について



藤家貴之議員の質問

栄・下田地区における固定 資産税の住宅用地に対する 課税標準の特例について

- Q 三条地区と栄・下田地区では運用
方法が異なっており、令和6年度
より三条地区の運用に統一するが、対象
件数と試算額について伺う。
- A 令和5年7月末現在、対象件
数は、栄地区866件、下田
地区906件。試算額については、
476万1800円の増を見込んで
おり、平均で1件当たり2600円ほ
どの増である。

電気自動車(EV車)について

- Q 公用車の環境に配慮した電気自動
車の導入状況について伺う。
- A ハイブリッド車やアイドリングス
トップ車などの導入は進めている
が、電気自動車については、導入経費が
割高なこと等の課題があるため、導入は
考えていない。

- Q 市民への購入補助金を導入して
はどうか。
- A 現時点では補助を行う予定はない。

介護現場では、職員が足りず体調
が悪くても休めない、給料が安い
などと聞く。こうした環境の改善や対
策をどう考えるか。

- A 人材の安定確保のため、金銭的支援
策は重要と認識している。まずは、
研修、イメージアップ、担い手確保、業務
改善支援を検討する。
- Q 県央基幹病院開院の関係で看護
師支援を講じたように、介護士養
成の奨学金制度や支援策を講じてはど
うか。
- A 国、県、他市の動向を踏まえて研究
したい。

障がいを持つ人等の移動に ついて

- Q JRの駅員不在時に自動改札のト
ラブル、電車の遅れ、運休などが
分ならず、障がい者や高齢者が戸惑う
ことがあると聞く。誰もが移動手段と
して利用するJRについて、市はどの
ように考えるか。
- A 駅員の配置や乗車券の購入方法な
どはJRの経営判断だ。
- Q 普段と違うことが起きた際、声を
掛けてくれる駅員の存在は大きい。
見守りを要望してはどうか。

農業政策について

- Q 猛暑や雨不足による農作物の影響
への支援策は検討しているか。
- A 県の渇水被害応急対策を活用する
が、市独自の支援は考えていない。



大きなひびが入り立ち枯れる田んぼ



岡田竜一議員の質問

新たな都市計画マスタープラ ンの策定検討状況について

- Q 今年度は何をやっているのか。
また、計画策定の体制と見通しに
ついて伺う。
- A 今年度は、計画策定に必要な三条
市の自然条件、社会条件、土地利
用、都市整備状況等の現況把握と整理
を行っている。

駅構内の業務に関してはJRが所
管。要望は考えていない。



通勤通学で混み合う駅



岡本康佑議員の質問

県央地域と三条市における 発達障がいの医療及び療 育について

- Q 県央医療圏の核である県立吉田病
院を受診しようとする際、複数力
月かかる状態は変わらないか。
- A 以前と変わらず予約が困難な状
況。複数力月かかっている。
- Q 県立吉田病院以外に、市内で発達
障がいの診断を受けられる病院は
あるか。

なり、政策推進課をはじめ各分野担当
課と連携しながら進める。また、各関係
団体など、外部の人で構成する策定委
員会で随時審議いただく方向で検討し
ている。来年度から策定作業に着手し、
令和7年度末には新たな都市計画マス
タープランを策定したい。

休耕地等を活用した再生可能 エネルギーの調査研究状況と 今後の事業化の見通しについて

- Q 今年度はどのようなことを具体
に行ってきたのか。
- A また、来年度予算編成の時期にな
るが、調査研究を振り返り、どのよう
に来年度予算に反映するのか。事業化
の見通しがあるのか、ないのかを伺う。
- A 休耕地等を活用した再生可能エネ
ルギー、いわゆる早生樹等の植林の
現時点での事業化は難しい。引き続き研
究していく。



耕作放棄地を林地化できるか実験中の現場
木質バイオマスに生かせるか否か